

平成11年度
平塚市美術館年報

ANNUAL REPORT

The Hiratsuka Museum of Art 1999

目 次

企画展	4
かたちびとー島田章三展	
堀内誠一展	
島海青児デッサン展	
英国水彩画100選展	
常設展示	12
第1回常設展示（4／6～5／23）	
第2回常設展示（5／25～8／8）	
第3回常設展示（8／10～11／14）	
第4回常設展示（11／16～2／20）	
第5回常設展示（2／24～6／11）	
特集展示第1回（5／25～6／17）本荘越素描展	
特集展示第2回（2／24～3／26）追悼濱谷浩展	
教育普及	24
カラダを表現する	
「子供のワークショップ／わたしのカラダを立体コピー！」	
「レクチャー／ヨーロッパと日本の絵画でたどる化粧、髪型、ファッション」	
「ワークショップ／触れることでつくられる」	
「ワークショップ／FIVE SENSE（ファイブセンス）」	
ワークショップクラブ	
「参加する美術館「幻想植物園」展のバックステージ」	
読むワークショップ	
ワークショップオリジナルブックの制作	
オリジナルビデオ制作「常設展ガイド 洋画編・日本画編」	
陶芸教室	
初心者陶芸教室／夏休み子供陶芸教室／初心者陶芸教室	
保存・修復	32
平成11年度保存・修復作品	
収蔵庫虫害調査	
収蔵庫・展示室空気環境調査	
収蔵作品	34
平成11年度収集作品	
統計	35
観覧者数／施設利用状況／学校団体観覧利用者数／市民アートギャラリー利用状況	
沿革	38
組織・運営	39
美術館協議会／組織／職員名簿	

展覧会図録

大きさ 29.0cm×22.4cm

頁 数 140頁

論 文 酒井哲朗『「かたちびと」の作品世界』

福田徳樹『同時代的回想』

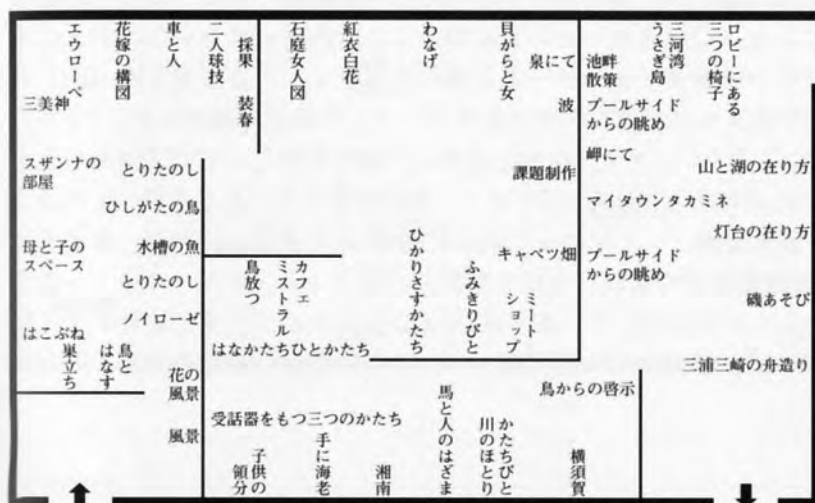
安井収蔵『かたちびとと島田章三さんのかたち』

毛利伊知郎『初期の島田章三』

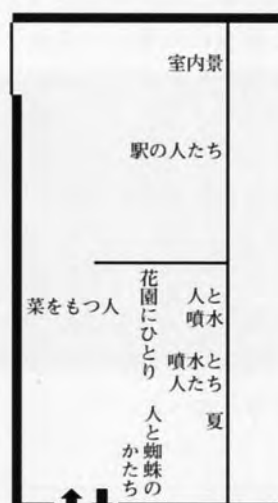
岡部幹彦『“かたち”と“ひと”の不可分の関係―“かたちびと”島田章三』



展覧会場



(第1会場)



(第2会場)

関連事業

講演会「わたしの仕事―島田章三」

日 時：4月17日（土）13：30～15：00

ゲスト：島田章三／聞き手：福田徳樹

会 場：ミュージアムホール（講堂）

参加者：約200人



堀内誠一 雑誌と絵本の世界展

『アンアン』創刊から『ぐるんぱのようちえん』まで
時代を駆けぬけたヴィジュアル・メッセージ

会 期 平成11年8月21日(土)～10月3日(日)

主 催 平塚市美術館 堀内事務所

後 援 福音館書店 マガジンハウス 朝日新聞横浜支局 神奈川新聞 読売新聞社横浜支局
NHK横浜放送局

協 力 平塚ステーションビル株式会社 平塚書籍共同組合

本展は1987年に54才の若さで亡くなった堀内誠一の仕事を紹介する初めての回顧展である。時代への好奇心とそこで見つけた新しいこと、面白いことを人に伝えたいという姿勢から、堀内誠一はアート・ディレクター、絵本作家、グラフィック・デザイナー、イラストレーターなど様々なスタイルの表現者となった。たとえばアート・ディレクターとしては、60年代から80年代の若者文化をリードした雑誌『週間平凡』『平凡パンチ』のファッション・ページや『アンアン』『ブルーラス』などを担当し、絵本作家としては子供から大人まで楽しんだ『くろうまブランキー』『ぐるんぱのようちえん』『マザー・グースのうた』などを描いている。

展覧会では、雑誌をはじめ、イラストや表紙原画、レイアウト用紙など約200点で雑誌の仕事を、また美しい原画や取材スケッチなど約100点で絵本の仕事を紹介した。写真や映像などのヴィジュアル・メッセージがますます多様となり、表現の仕事が分業化しシステム化している今日、「人に伝えたいことをわかりやすく伝えること」を出発点にマルチ・クリエイター的な活躍をした堀内誠一の、その先駆者としての役割を改めて検証するものとなった。



JR東日本で前売券発売中!!

お求めは、JR東日本とJR西日本の2つの窓口(最上階・最下階)で、営業時間内
[前売券] 一般 180円 学生 320円 中学生 160円 (http://www.jr-tokaido.co.jp/exhibition/)



展覧会図録

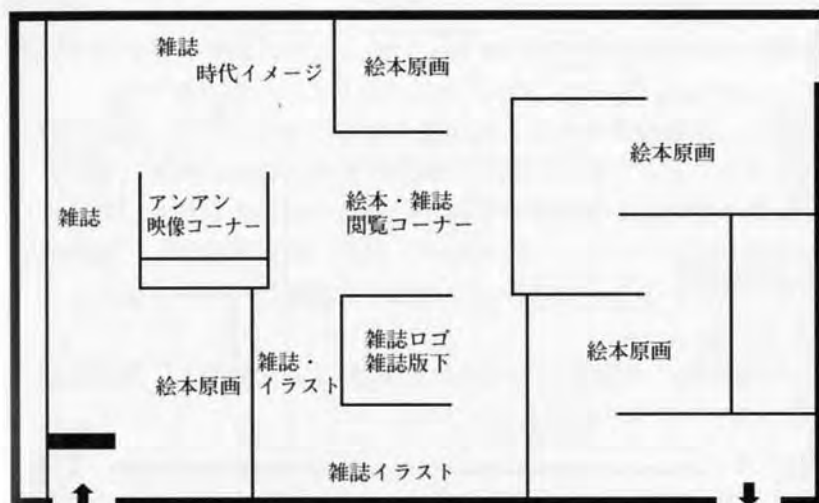
大きさ 29.7cm×22.0cm

頁 数 75頁

解説と年譜（編） 小池光理

仕事目録（編） 郡司亜也子

展覧会場



関連事業

講演会「堀内さんの思い出」

日 時 9月5日（日）午後2時より 入場無料

講 師 谷川俊太郎（詩人）

場 所 ミュージアムホール（講堂）

聴講者 約300名

音楽会「こどものためのコンサート」

日 時 9月19日（日）午後2時より 入場無料

曲 目 浦田健次郎作曲「マザーグースによるうた」

フォーレ作曲「組曲ドリー」

ショパン作曲「ピアノソナタ第3番」

演奏者 ピアノ：岡本暁子、渡辺愛

う た・朗読：長谷川恭子

企画協力：わたなべ洋子

場 所 ミュージアムホール（講堂）

聴講者 約100名

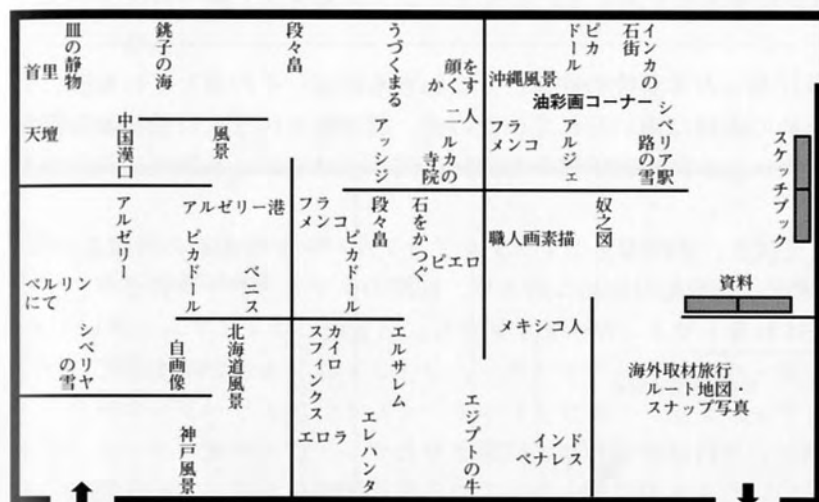
展覧会図録

大きさ 26.0cm×17.7cm

頁数 128頁

論文 鈴木 幹「日本と西洋の眼 1957年のヨーロッパ旅行にかかわるデッサンをめぐって」

展覧会場



ヴィクトリア&アルバート美術館所蔵 英国水彩画100選展

会 期 平成11年12月21日(火)～平成12年2月5日(土)

主 催 平塚市美術館

企画協力 (株)ブレーントラスト

後援 ブリテイッシュ・カウンシル、外務省、神奈川新聞社

協力 日本航空

16世紀ヨーロッパ各地で注目されるようになった水溶性の絵具、すなわち水彩は、その後とくに英国において大きく展開し、それまでは油彩画のための素描に用いられていたのが、透明性という素材独特の特徴を活かして水彩画という独自の領域を確立した。とくに1750年代から1850年代にかけては、水彩画は黄金期を迎えた。

本展では世界有数の水彩画コレクションを誇る、英国国立ヴィクトリア&アルバート美術館の所蔵品から、選りすぐりの作品100点を紹介した。その構成は16世紀の作品に始まり、初期のトマス・ゲインズボロ、ジョン・ロバート・カズンズ、水彩画の父と呼ばれるトマス・ガーティンから、黄金期のウィリアム・ブレイク、サミュエル・パーマー、ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー、ジョン・コンスタブルを経て、ラファエル前派のダンテ・ガブリエル・ロセッティ、ジョン・エヴァレット・ミレイ、エドワード・コリー・バーン＝ジョーンズの作品、そして水彩画という技法を多方向に展開させたグレアム・サザーランド、デイヴィッド・ホックニーなどの20世紀の作品にいたるものであった。これらをほぼ時代を追って、①初期の水彩画 ②ロマン主義的水彩画の登場 ③ターナーの時代 ④ラスキンとラファエル前派 ⑤多様な現代水彩画の5つの章に区分し、英国水彩画の流れを通覧できるように展示した。

本展は、携帯性、速乾性、透明感を特質としてもつ水彩という素材による自然の光や大気の効果をつえた表現、また即興的、習作的な制作態度をうかがう絶好の機会となり、当館開催前後に入間市博物館【平成11年10月30日(土)～12月12日(日)】、姫路市立美術館【平成12年2月11日(金)～3月12日(日)】、郡山市立美術館【平成12年3月19日(日)～4月23日(日)】でも開催された。

ヴィクトリア&アルバート美術館所蔵
英国水彩画100選展



One Hundred British Watercolours
AT THE VICTORIA AND ALBERT MUSEUM

ザウスボロ、カーチのからターナー、エスチアル、ロセッパ、ミレイ、バーン・ジョーンズを経てサザーランド、セックニーまで

[illegible][illegible]

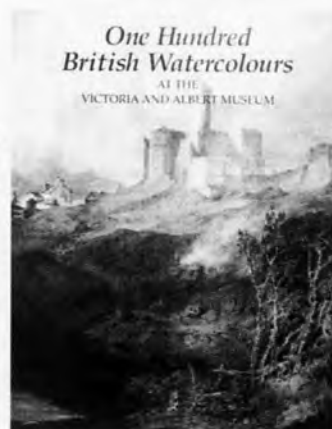
展覧会図録

大きさ 29.0cm×22.7cm

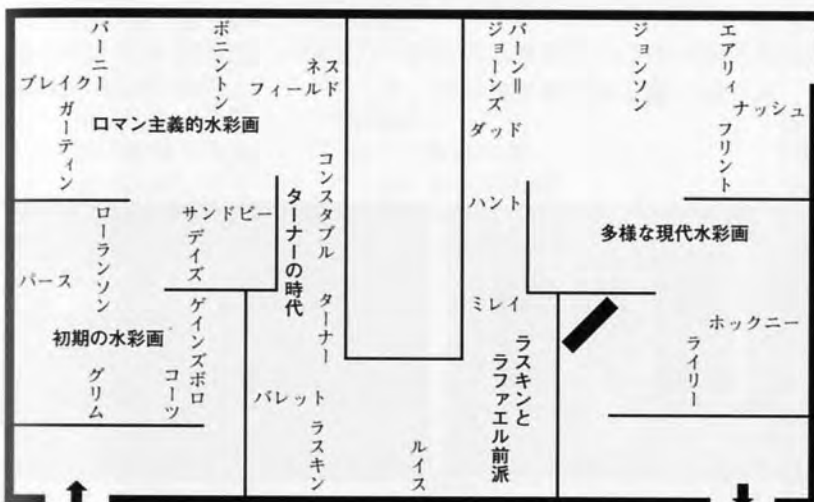
頁 数 154頁

論 文 ロナルド・パーキンソン（元ヴィクトリア&アルバート美術館絵画部門副部長）「序文」福田徳樹（平塚市美術館館長）「断想・近代日本の水彩画と英国の水彩画」

資 料 永山多貴子（郡山市立美術館学芸員）・郡司亜也子（平塚市美術館学芸員）編「作家略歴」永山多貴子（郡山市立美術館学芸員）編「用語解説」



展覧会場



関連事業

関連ビデオ上映「イギリスの庭園 ～ナショナル・トラスト～」

日 時：12月21日(火)～2月5日(土)

会 場：ミュージアムホール（講堂）

制 作：英国政府観光局

コンサート「ハープで奏でる英国音楽の夕べ」

日 時：12月26日(日) 18:00～19:40

場 所：テーマホール

演 奏：八木健一氏（ハープ）八木ゆみ氏（シンセサイザー）

曲 目：God Save the Queen（イギリス国歌）、
Now, oh now I needs must part（ダウランド作曲）、
Green Sleeves（イギリス民謡）他



講演会「ヴィクトリア女王時代の道徳」

日 時：1月8日(土) 13:30～15:00

会 場：ミュージアムホール（講堂）

講 師：石井美樹子氏（神奈川大学教授）



常設展示

今年度の常設展示では、所蔵品から湘南ゆかりの作家のすぐれた作品を紹介する従来の常設展示に加えて、各回ごとにテーマを設定した「特集展示」を初めて開催した。

当館開設準備段階から今日に至るまで、「湘南の美術・光」のテーマのもとに収集された所蔵品は年々充実してきている。常設展示では展示替えを行いながらそれらを紹介してきたが、とくに素描類、版画等についてその全容を紹介することには限りがあった。特集展示は、湘南地域にゆかりのある作品を、より詳しく、また幅広く紹介する機会であると同時に、所蔵品に関する新たな知見や研究課題が生まれる場にもなる筈である。

今年度の特集展示は2回開催した。特集展示「本荘越の素描」では、平塚市に生まれ、春陽会で活躍した洋画家本荘越（1906～1993）の素描作品82点を、関連のある油彩作品5点とともに紹介。描かれた画題別にⅠ植物・蔬果、Ⅱ風景、Ⅲ建てる、Ⅳ仏像・肖像の4つのコーナーを設けた。また特集展示「追悼 濱谷浩」では、現代日本を代表する写真家、濱谷浩（1915～1999）が1999年3月に83歳で没したのを悼み、当館所蔵作品から雪国、裏日本、昭和男性諸君、学芸諸家のシリーズなど80点により濱谷の活動を回顧した。

一方、常設展示は各回80～90点により、近代洋画を中心にほぼ作家の活躍年代に沿って作品を紹介した。展示替は第2回と第5回は全面的に、第1回、第3回、第4回は部分的に行った。



第4回常設展示



特集展示「本荘越の素描」



特集展示「追悼 濱谷浩」

*は寄託作品

第1回常設展示 1999年4月6日（火）～5月23日（日）

No.	作家名	作品名	制作年	材質・技法
■湘南ゆかりの画家				
1	朝井閑右衛門	廃園に於いて	1926	油彩・キャンバス
2	井上 三綱	水辺の馬	1951	油彩・墨・胡粉・キャンバス
3	井上 三綱	乳牛三頭	1951	油彩・墨・胡粉・キャンバス
4	井上 三綱	牛小屋	1953	墨・弁柄・胡粉・キャンバス
5	今村 紫紅	入る日・出る月（小下絵）	1915	紙本着色
6	金子 保	裸婦	1928	油彩・キャンバス
7	岸田 劉生	石垣ある道（鵠沼風景）	1921	油彩・キャンバス
8	木村 荘八	ギターを弾く男（鳥海青児）	1930	油彩・キャンバス
9	黒田 清輝	波打ち際の岩	1896	油彩・板
10	黒田 清輝	由比ヶ浜	1897	油彩・板
11	小山 敬三	晩秋飛瀑	1977	油彩・キャンバス
12	里見 勝蔵	イビサの田野	1961	油彩・キャンバス
13	椿 貞雄	菊子坐像	1922	油彩・キャンバス
14	椿 貞雄	朝子像	1927	油彩・キャンバス
15	椿 貞雄	鵠沼風景	1921	油彩・キャンバス
16	中川 一政	薔薇	不詳	油彩・キャンバス
17	中村 琢二	うたい	1965	油彩・キャンバス

18	中村 琢二	奥大井	1983	油彩・キャンバス
19	野口弥太郎	裸婦	1951	油彩・キャンバス
20	原 精一	煙草のむ男	1936	油彩・キャンバス
21	原 精一	本を見る女	1934	油彩・キャンバス
22	二見 利節	マドモアゼル美保	1973	油彩・キャンバス
23	本莊 赳	廃屋（一）	1987	油彩・キャンバス
24	本莊 赳	蓮池早暁	1988	油彩・キャンバス
25	本莊 赳	建てる	1982	油彩・キャンバス
26	本莊 赳	朝	1986	油彩・キャンバス
27	森田 勝	アルジェ風景	1932-34	油彩・キャンバス
28	森田 勝	街	1933頃	油彩・ボード
29	安井曾太郎	東京駅前の朝	不詳	鉛筆・淡彩・紙
30	萬 鐵五郎	海景習作	1909頃	油彩・板
31	萬 鐵五郎	海岸風景	1924	油彩・キャンバス
32	萬 鐵五郎	湘南風景	1926	油彩・キャンバス
33	萬 鐵五郎	椿	1926	油彩・キャンバス
■鳥海青児の世界				
34	鳥海 青児	芦屋風景	1926	油彩・板
35	鳥海 青児	シベリア駅路の雪	1930	油彩・キャンバス
36	鳥海 青児	グーベルヌマン広場	1932	油彩・キャンバス
37	鳥海 青児	アルジェ風景	1932	油彩・キャンバス
38	鳥海 青児	オランダ風景	1932	油彩・キャンバスボード
39	鳥海 青児	水田	1936	油彩・キャンバス
40	鳥海 青児	沖縄風景	1940	油彩・キャンバス
41	鳥海 青児	アカシア	1941	油彩・キャンバス
42	鳥海 青児	段々畑	1952	油彩・キャンバス
43	鳥海 青児	伊賀瓶子とメロン	1957	油彩・キャンバス
44	鳥海 青児	大理石をはこぶ男	1958	油彩・キャンバス
45	鳥海 青児	スペイン風景	1959	油彩・キャンバス
46	鳥海 青児	ブラインドをおろす	1959	油彩・キャンバス
47	鳥海 青児	メキシコの西瓜	1961	油彩・キャンバス
48	鳥海 青児	根来瓶子と果物	1971	油彩・キャンバス
小展示 鳥海青児のデッサン——滞欧時代1930～32——				
49	鳥海 青児	シベリヤの駅	1930	鉛筆・紙
50	鳥海 青児	シベリヤの駅	1930	鉛筆・水彩・紙
51	鳥海 青児	ベルリンの公園	1930頃	鉛筆・水彩・紙
52	鳥海 青児	ベルリン	1930	鉛筆・紙
53	鳥海 青児	ヴェニス	1930	鉛筆・クレパス・紙
54	鳥海 青児	ピカドール(1)	1931	鉛筆・紙
55	鳥海 青児	アルゼリーの女	1931頃	鉛筆・紙
56	鳥海 青児	アルジェリアの風景	1931	鉛筆・水彩・紙

第2回常設展示 1999年5月25日（火）～8月8日（日）[前]は～6月20日（日）、[後]は6月24日（木）～のみの展示

No.	作家名	作品名	制作年	材質・技法
1	黒田 清輝	波打ち際の岩	1896	油彩・板
2	山本 鼎	国府津海浜より箱根連峰を望む	1936	油彩・キャンバス
3	小糸源太郎	早春	1942	油彩・キャンバス
4	小糸源太郎	春	1916	油彩・キャンバス
*5	三宅 克己	郊外 戸山原	1911-19頃	水彩・紙
6	萬 鐵五郎	富士（砂丘風景）	1924	油彩・キャンバス
7	萬 鐵五郎	住吉神社風景	1909頃	油彩・板
8	萬 鐵五郎	宙腰の人	1924	油彩・キャンバス
9	萬 鐵五郎	雲と裸婦	1922頃	油彩・キャンバス
10	萬 鐵五郎	羅布かづく人	1924	木版・紙
11	岸田 劉生	F氏像	1914	油彩・キャンバス
12	岸田 劉生	Aの肖像	1913	油彩・キャンバス

13	鍋井 克之	琵琶湖のヨット	1950	油彩・キャンバス
14	牧野 虎雄	庭小径（秋）	1933	油彩・板
15	恩地 孝四郎	ボエム No.21	1953	混合技法・紙
16	中川 一政	椅子の女	1941	油彩・キャンバス
17	中川 一政	薔薇	不詳	油彩・キャンバス
18	青山 義雄	バラアーチ	1990	油彩・キャンバス
19	林 俊衛	白い橋と緑樹	1921-26	油彩・キャンバス
20	高島達四郎	樹木・箱根連山	1936	油彩・キャンバス
*21	椿 貞雄	祖母と孫	1955頃	油彩・パステル・板
*22	椿 貞雄	糟谷夫人像	1942-44	油彩・キャンバス
23	椿 貞雄	朝子像	1927	油彩・キャンバス
24	椿 貞雄	菊子坐像	1922	油彩・キャンバス
25	中村 琢二	南伊豆	1984	油彩・キャンバス
26	中村 琢二	女	1956	油彩・キャンバス
27	高田 力蔵	朝霧のノートルダム	1967	油彩・キャンバス
28	別府貫一郎	霧のベネツィア	1955	油彩・キャンバス
29	朝井閑右衛門	悪霊と道化	1972	油彩・紙
30	井上 三綱	駆けだした牛	1956	油彩・墨・弁柄・胡粉・キャンバス
31	井上 三綱	はたおり	1956	油彩・墨・弁柄・胡粉・キャンバス
32	井上 三綱	馬の顔	不詳	パステル・墨・弁柄・紙
33	井上 三綱	馬	不詳	墨・弁柄・胡粉・紙
34	鳥海 青児	シベリア駅路の雪	1930	油彩・キャンバス
35	鳥海 青児	グーベルヌマン広場	1932	油彩・キャンバス
36	鳥海 青児	サンマルコの広場	1930	油彩・キャンバス
37	鳥海 青児	石橋のある風景	1937	油彩・キャンバス
38	鳥海 青児	蘇州風景	1939	油彩・キャンバス
39	鳥海 青児	北京天壇	1941	油彩・ボード
40	鳥海 青児	天津のフランス寺院	1942	油彩・キャンバス
41	鳥海 青児	黄色い人	1956	油彩・キャンバス
42	鳥海 青児	ピカドール	1958	油彩・キャンバス
43	鳥海 青児	壁の修理	1959	油彩・キャンバス
44	鳥海 青児	石だたみ	1962	油彩・キャンバス
45	鳥海 青児	フラメンコ	1972	油彩・キャンバス
46	森田 勝	女の顔	1933頃	油彩・キャンバス
47	森田 勝	矢車艸	1928	油彩・キャンバス
48	三岸 節子	インカの壺	1968	油彩・キャンバス
49	原 精一	桐生風景	1927	油彩・キャンバス
50	原 精一	黒衣少女	1955	油彩・キャンバス
51	原 精一	たまごのある静物	1956	油彩・キャンバス
52	山下大五郎	平塚風景	1930	油彩・キャンバス
53	山下大五郎	砂丘	1965	油彩・キャンバス
54	木下 公男	エレファントの村	1979	油彩・キャンバス
55	松本 節	廃苑の夏	1934	油彩・キャンバス
56	二見 利節	沢崎節子像	1934	油彩・麻布
57	二見 利節	老女	1934頃	油彩・麻布
58	二見 利節	三人の女	1939	油彩・キャンバス
59	二見 利節	麦	1960	水彩・色鉛筆・蠟・紙
60	二見 利節	麦	1960頃	水彩・色鉛筆・胡粉・蠟・紙
61	二見 利節	麦	1962頃	オイルパステル・紙
62	二見 利節	麦	1960頃	水彩・色鉛筆・蠟・紙
63	本荘 赳	残照	1943	油彩・紙
64	土井 俊泰	作品 I	1960	油彩・キャンバス
65	横山 大観	不盡之高嶺	1915	絹本着色
66	下村 観山	竹林図	不詳	絹本墨画
67	今村 紫紅	水汲む女・牛飼う男	1914	紙本着色
68	安田 靱彦	寒香留古春	1920	絹本着色
69	安田 靱彦	新蔬	1940	紙本着色

70	安田 鞆彦	日食	1925	紙本着色
71	安田 鞆彦	宮本二天像	1933	紙本着色
72	安田 鞆彦	孔子観河	1936以前	絹本墨画淡彩
73	安田 鞆彦	赤星母堂像	1943	紙本着色
74	山本 丘人	入江	1954	絹本着色
75	北沢 映月	女人正	1972	紙本着色
76	近藤 弘明	幻光——御感の藤——	1987	紙本着色
*77	広田 多津	髪	1989	紙本着色
78	常盤 大空	黒颯 カラフラン	1970	紙本着色
79	工藤 甲人	愉しき仲間 (一)	1951	紙本着色
80	工藤 甲人	愉しき仲間 (二)	1951	紙本着色
[前] 81	濱谷 浩	裏日本 津軽の男	1955	ゼラチンシルバープリント
[前] 82	濱谷 浩	裏日本 共同井戸	1955	ゼラチンシルバープリント
[前] 83	濱谷 浩	裏日本 港のない漁村	1955	ゼラチンシルバープリント
[前] 84	濱谷 浩	裏日本 海の家族	1955	ゼラチンシルバープリント
[前] 85	濱谷 浩	裏日本 歳の市	1955	ゼラチンシルバープリント
[前] 86	濱谷 浩	裏日本 氷の下の地曳き網	1955	ゼラチンシルバープリント
[前] 87	濱谷 浩	裏日本 停留所	1955	ゼラチンシルバープリント
[前] 88	濱谷 浩	裏日本 田植女	1955	ゼラチンシルバープリント
[前] 89	濱谷 浩	裏日本 生活	1955	ゼラチンシルバープリント
[前] 90	濱谷 浩	裏日本 島の墓場	1955	ゼラチンシルバープリント
[前] 91	濱谷 浩	裏日本 農家の子	1955	ゼラチンシルバープリント
[前] 92	濱谷 浩	裏日本 稲刈り	1955	ゼラチンシルバープリント
[前] 93	濱谷 浩	裏日本 雲と波と雪と家	1955	ゼラチンシルバープリント
[前] 94	濱谷 浩	裏日本 海の夫婦	1955	ゼラチンシルバープリント
[前] 95	濱谷 浩	裏日本 赤子を背負った子	1955	ゼラチンシルバープリント
[前] 96	濱谷 浩	裏日本 山の暮らし	1955	ゼラチンシルバープリント
[前] 97	濱谷 浩	裏日本 雪に暮れる部落	1955	ゼラチンシルバープリント
[前] 98	濱谷 浩	裏日本 雁木	1956	ゼラチンシルバープリント
[前] 99	濱谷 浩	裏日本 餅づくり	1956	ゼラチンシルバープリント
[前] 100	濱谷 浩	裏日本 湯滝にうたれる女たち	1957	ゼラチンシルバープリント
[後] 81	濱谷 浩	生の貌 ハルピン孤児院の混血児	1940	ゼラチンシルバープリント
[後] 82	濱谷 浩	生の貌 網を運ぶ漁師	1940	ゼラチンシルバープリント
[後] 83	濱谷 浩	生の貌 東大寺修二会の僧	1954	ゼラチンシルバープリント
[後] 84	濱谷 浩	生の貌 生毛を剃る女	1956	ゼラチンシルバープリント
[後] 85	濱谷 浩	生の貌 楽器をもつ少年	1956	ゼラチンシルバープリント
[後] 86	濱谷 浩	生の貌 寒い日の海女	1958	ゼラチンシルバープリント
[後] 87	濱谷 浩	生の貌 米倉庫	1960	ゼラチンシルバープリント
[後] 88	濱谷 浩	生の貌 島の旧家宮良殿内	1963	ゼラチンシルバープリント
[後] 89	濱谷 浩	生の貌 ワシントン・モニュメント	1967	ゼラチンシルバープリント
[後] 90	濱谷 浩	生の貌 キングスロードの若者	1969	ゼラチンシルバープリント
[後] 91	濱谷 浩	生の貌 島の若者	1973	ゼラチンシルバープリント
[後] 92	濱谷 浩	生の貌 クーデター報告集会	1978	ゼラチンシルバープリント
[後] 93	濱谷 浩	生の貌 古代豪族の墓	1979	ゼラチンシルバープリント
[後] 94	濱谷 浩	花を売る少年	1936	ゼラチンシルバープリント
[後] 95	濱谷 浩	昭和女人集 キャッシー木下千鶴嬢	1976	ゼラチンシルバープリント
[後] 96	濱谷 浩	女人暦日 迎え火	1948	ゼラチンシルバープリント
[後] 97	濱谷 浩	引揚者	1953	ゼラチンシルバープリント
[後] 98	濱谷 浩	豊年祝の面をつけた男	1963	ゼラチンシルバープリント

第3回常設展示 1999年8月10日(火)～11月14日(日)

No.	作家名	作品名	制作年	材質・技法
1	黒田 清輝	波打ち際の岩	1896	油彩・板
2	山本 鼎	国府津海浜より箱根連峰を望む	1936	油彩・キャンバス
3	小糸源太郎	早春	1942	油彩・キャンバス

4	小糸源太郎	春	1916	油彩・キャンバス
5	金沢 重治	風強き浜辺	1930	油彩・キャンバス
6	萬 鐵五郎	住吉神社風景	1909頃	油彩・板
7	萬 鐵五郎	雲と裸婦	1922頃	油彩・キャンバス
8	萬 鐵五郎	宙腰の人	1924	油彩・キャンバス
9	萬 鐵五郎	富士（砂丘風景）	1924	油彩・キャンバス
10	岸田 劉生	自画像	1917	コンテ・紙
11	岸田 劉生	F氏像	1914	油彩・キャンバス
12	岸田 劉生	Aの肖像	1913	油彩・キャンバス
13	鍋井 克之	琵琶湖のヨット	1950	油彩・キャンバス
14	牧野 虎雄	庭小径（秋）	1933	油彩・板
15	恩地孝四郎	コンポジション	1953	リトグラフ・紙
16	中川 一政	椅子の少女	1916	油彩・キャンバス
17	中川 一政	薔薇	不詳	油彩・キャンバス
18	青山 義雄	バラアーチ	1990	油彩・キャンバス
19	林 俊衛	白い橋と緑樹	1921-26	油彩・キャンバス
20	高島達四郎	樹木・箱根連山	1936	油彩・キャンバス
*21	椿 貞雄	祖母と孫	1955頃	油彩・パステル・板
*22	椿 貞雄	糟谷夫人像	1942-44	油彩・キャンバス
23	椿 貞雄	朝子像	1927	油彩・キャンバス
24	椿 貞雄	菊子坐像	1922	油彩・キャンバス
25	中村 琢二	南伊豆	1984	油彩・キャンバス
26	中村 琢二	女	1956	油彩・キャンバス
27	高田 力蔵	朝霧のノートルダム	1967	油彩・キャンバス
28	別府貫一郎	霧のベネツィア	1955	油彩・キャンバス
29	朝井閑右衛門	悪霊と道化	1972	油彩・紙
30	真垣 武勝	尾瀬	1963	油彩・キャンバス
31	真垣 武勝	ロンドン ウェストミンスター橋観光船発着所	1967	油彩・キャンバス
32	鳥海 青児	静物	1926	油彩・板
33	鳥海 青児	グーベルヌマン広場	1932	油彩・キャンバス
34	鳥海 青児	サンマルコの広場	1930	油彩・キャンバス
35	鳥海 青児	石橋のある風景	1937	油彩・キャンバス
36	鳥海 青児	蘇州風景	1939	油彩・キャンバス
37	鳥海 青児	アカシア	1941	油彩・キャンバス
38	鳥海 青児	ぼたん	1946	油彩・キャンバス
39	鳥海 青児	黄色い人	1956	油彩・キャンバス
40	鳥海 青児	二重橋	1956	油彩・キャンバス
41	鳥海 青児	木心の出た法隆寺塑像	1967	油彩・キャンバス
42	鳥海 青児	メキシコ人の家族	1969	油彩・キャンバス
43	森田 勝	女の顔	1933頃	油彩・キャンバス
44	森田 勝	矢車艸	1928	油彩・キャンバス
45	三岸 節子	インカの壺	1968	油彩・キャンバス
46	原 精一	桐生風景	1927	油彩・キャンバス
47	原 精一	黒衣少女	1955	油彩・キャンバス
48	原 精一	たまごのある静物	1956	油彩・キャンバス
49	山下大五郎	平塚風景	1930	油彩・キャンバス
50	山下大五郎	砂丘	1965	油彩・キャンバス
51	木下 公男	エレファントの村	1979	油彩・キャンバス
52	本莊 赳	大徳寺方丈の土間	1968	油彩・キャンバス
53	本莊 赳	魔屋（一）	1987	油彩・キャンバス
54	二見 利節	沢崎節子像	1934	油彩・麻布
55	二見 利節	老女	1934頃	油彩・麻布
56	二見 利節	三人の女	1939	油彩・キャンバス
57	井上 三綱	泰山石刻	1972	紙本着色／貼紙
58	平福 百穂	酸漿草	1919	紙本着色
59	今村 紫紅	老松	1911	紙本着色
60	今村 紫紅	瀧	1915	紙本着色

61	安田 鞆彦	宇治合戦図	1905	絹本着色
62	安田 鞆彦	相撲の節	1907頃	絹本着色
63	安田 鞆彦	稚児文殊	1912頃	絹本着色
64	長野 草風	葎に鶴鶴	不詳	絹本着色
65	前田 青邨	秋風五丈原	1920	絹本墨画淡彩
66	中村 貞以	螢	不詳	絹本着色
*67	広田 多津	流れ	1972	紙本着色
68	工藤 甲人	蝶の階段	1967	紙本着色
69	工藤 甲人	相	1984	紙本着色
70	近藤 弘明	寂韶苑	1982	紙本着色
71	国領 経郎	海景	1968	油彩・キャンバス
72	国領 経郎	寂夏	1983	油彩・キャンバス
73	土井 俊泰	作品Ⅰ	1960	油彩・キャンバス
74	濱谷 浩	生の貌 ハルピン孤児院の混血児	1940	ゼラチンシルバープリント
75	濱谷 浩	生の貌 網を運ぶ漁師	1940	ゼラチンシルバープリント
76	濱谷 浩	生の貌 東大寺修二会の僧	1954	ゼラチンシルバープリント
77	濱谷 浩	生の貌 生毛を剃る女	1956	ゼラチンシルバープリント
78	濱谷 浩	生の貌 楽器をもつ少年	1956	ゼラチンシルバープリント
79	濱谷 浩	生の貌 寒い日の海女	1958	ゼラチンシルバープリント
80	濱谷 浩	生の貌 米倉庫	1960	ゼラチンシルバープリント
81	濱谷 浩	生の貌 島の旧家宮良殿内	1963	ゼラチンシルバープリント
82	濱谷 浩	生の貌 ワシントン・モニュメント	1967	ゼラチンシルバープリント
83	濱谷 浩	生の貌 キングスロードの若者	1969	ゼラチンシルバープリント
84	濱谷 浩	生の貌 島の若者	1973	ゼラチンシルバープリント
85	濱谷 浩	生の貌 クーデター報告集会	1978	ゼラチンシルバープリント
86	濱谷 浩	生の貌 古代豪族の墓	1979	ゼラチンシルバープリント
87	濱谷 浩	花を売る少年	1936	ゼラチンシルバープリント
88	濱谷 浩	女人暦日 迎え火	1948	ゼラチンシルバープリント
89	濱谷 浩	引揚者	1953	ゼラチンシルバープリント
90	濱谷 浩	豊年祝の面をつけた男	1963	ゼラチンシルバープリント
91	濱谷 浩	昭和女人集 キャッシー木下千鶴嬢	1976	ゼラチンシルバープリント

第4回常設展示 1999年11月16日（火）～2000年2月20日（日）

No.	作家名	作品名	制作年	材質・技法
1	黒田 清輝	波打ち際の岩	1896	油彩・板
2	山本 鼎	国府津海浜より箱根連峰を望む	1936	油彩・キャンバス
3	小糸源太郎	早春	1942	油彩・キャンバス
4	小糸源太郎	春	1916	油彩・キャンバス
5	金沢 重治	風強き浜辺	1930	油彩・キャンバス
6	萬 鐵五郎	住吉神社風景	1909頃	油彩・板
7	萬 鐵五郎	雲と裸婦	1922頃	油彩・キャンバス
8	萬 鐵五郎	宙腰の人	1924	油彩・キャンバス
9	萬 鐵五郎	富士（砂丘風景）	1924	油彩・キャンバス
10	岸田 劉生	石垣ある道（鵠沼風景）	1921	油彩・キャンバス
11	岸田 劉生	Aの肖像	1913	油彩・キャンバス
12	鍋井 克之	琵琶湖のヨット	1950	油彩・キャンバス
13	牧野 虎雄	庭小径（秋）	1933	油彩・板
14	安井曾太郎	東京駅前の朝	不詳	鉛筆・水彩・紙
15	中川 一政	椅子の少女	1916	油彩・キャンバス
16	中川 一政	薔薇	不詳	油彩・キャンバス
17	青山 義雄	バラアーチ	1990	油彩・キャンバス
18	林 俊衛	白い橋と緑樹	1921-26	油彩・キャンバス
*19	椿 貞雄	マー坊	不詳	コンテ・紙
*20	椿 貞雄	糟谷夫人像	1942-44	油彩・キャンバス
21	椿 貞雄	朝子像	1927	油彩・キャンバス
22	椿 貞雄	菊子坐像	1922	油彩・キャンバス

23	中村 琢二	南伊豆	1984	油彩・キャンバス
24	中村 琢二	女	1956	油彩・キャンバス
25	高田 力蔵	朝霧のノートルダム	1967	油彩・キャンバス
26	高田 力蔵	スペイン階段	1972	油彩・キャンバス
27	別府貫一郎	霧のベネツィア	1955	油彩・キャンバス
28	朝井閑右衛門	悪霊と道化	1972	油彩・紙
29	真垣 武勝	尾瀬	1963	油彩・キャンバス
30	真垣 武勝	ロンドンウエストミンスター橋観光船発着所	1967	油彩・キャンバス
31	鳥海 青児	静物	1926	油彩・板
32	鳥海 青児	グーベルヌマン広場	1932	油彩・キャンバス
33	鳥海 青児	サンマルコの広場	1930	油彩・キャンバス
34	鳥海 青児	石橋のある風景	1937	油彩・キャンバス
35	鳥海 青児	蘇州風景	1939	油彩・キャンバス
36	鳥海 青児	アカシア	1941	油彩・キャンバス
37	鳥海 青児	ぼたん	1946	油彩・キャンバス
38	鳥海 青児	黄色い人	1956	油彩・キャンバス
39	鳥海 青児	二重橋	1956	油彩・キャンバス
40	鳥海 青児	木心の出た法隆寺塑像	1967	油彩・キャンバス
41	鳥海 青児	メキシコ人の家族	1969	油彩・キャンバス
42	森田 勝	女の顔	1933頃	油彩・キャンバス
43	森田 勝	矢車艸	1928	油彩・キャンバス
44	三岸 節子	インカの壺	1968	油彩・キャンバス
45	原 精一	桐生風景	1927	油彩・キャンバス
46	原 精一	黒衣少女	1955	油彩・キャンバス
47	原 精一	たまごのある静物	1956	油彩・キャンバス
48	山下大五郎	平塚風景	1930	油彩・キャンバス
49	山下大五郎	砂丘	1965	油彩・キャンバス
50	木下 公男	エレファントの村	1979	油彩・キャンバス
51	本莊 赳	大徳寺方丈の土間	1968	油彩・キャンバス
52	本莊 赳	廃屋 (一)	1987	油彩・キャンバス
53	二見 利節	沢崎節子像	1934	油彩・麻布
54	二見 利節	老女	1934頃	油彩・麻布
55	二見 利節	三人の女	1939	油彩・キャンバス
56	須田 剋太	文楽おそめ	1967	混合技法・色紙
57	須田 剋太	冬瓜	1967	混合技法・色紙
58	須田 剋太	祝猿	1967	混合技法・色紙
59	岸田 劉生	永日小品	1926	紙本墨画淡彩
60	萬 鐵五郎	茅ヶ崎風景	1922	紙本墨画
61	萬 鐵五郎	茅ヶ崎風景	1925	紙本墨画
62	萬 鐵五郎	風景	不詳	紙本墨画
63	萬 鐵五郎	田園風景	不詳	紙本墨画
64	小出 檣重	めでたき風景	1926	紙本墨画淡彩
65	川端 玉章	佐野常世	明治時代	紙本着色
66	野口 小蘋	山水図	明治時代	紙本墨画淡彩
67	下村 観山	竹林図	明治～大正	絹本墨画
68	鎗木 清方	洛外の春	明治中期	絹本着色
69	安田 靱彦	日食	1925	紙本着色
70	安田 靱彦	寒香留古春	1920	絹本着色
71	中村 光哉	過ぎし日(2)	1996	染色
72	工藤 甲人	杉	1983	紙本着色
73	近藤 弘明	寂照夜	1992	紙本着色
*74	麻田 鷹司	雪後山水	1970	紙本着色
75	国領 経郎	海景	1968	油彩・キャンバス
76	国領 経郎	寂夏	1983	油彩・キャンバス
77	国領 経郎	港	1955-65	鉛筆・紙
78	国領 経郎	たち葵	1970頃	鉛筆・紙
79	国領 経郎	たち葵	1970頃	鉛筆・紙

80	国領 経郎	たち葵	1970頃	鉛筆・紙
81	国領 経郎	たち葵	1970	鉛筆・紙
82	国領 経郎	むくげ	不詳	鉛筆・紙
83	国領 経郎	跡	1970-80	鉛筆・紙
84	国領 経郎	砂丘の草花	1970-85	コンテ・紙
85	国領 経郎	砂の詩Ⅰ	1970-85	コンテ・紙
86	国領 経郎	砂の詩Ⅱ	1970-85	鉛筆・紙
87	国領 経郎	ハマニガナ	1970-85	鉛筆・紙
88	国領 経郎	横たわる女	不詳	コンテ・紙
89	国領 経郎	後向きの女	不詳	コンテ・紙
90	国領 経郎	立つ女	不詳	コンテ・紙
91	国領 経郎	K子①	1982	リトグラフ・紙
92	国領 経郎	K子②	1982	リトグラフ・紙
93	国領 経郎	K子③	1982	リトグラフ・紙
94	国領 経郎	K子④	1982	リトグラフ・紙
95	国領 経郎	K子⑤	1982	リトグラフ・紙
96	国領 経郎	真鶴	1986	水彩・鉛筆・紙
97	土井 俊泰	作品Ⅰ	1960	油彩・キャンバス

第5回常設展示 2000年2月24日(木)～6月11日(日)

No.	作家名	作品名	制作年	材質・技法
1	黒田 清輝	由比ヶ浜	1897	油彩・板
2	鍋井 克之	勝浦温泉	1950	油彩・キャンバス
3	岸田 劉生	F氏像	1914	油彩・キャンバス
4	萬 鐵五郎	海景習作	1909頃	油彩・板
5	萬 鐵五郎	湘南風景	1926	油彩・キャンバス
6	萬 鐵五郎	静物	1926	油彩・キャンバス
7	萬 鐵五郎	ねて居る人	1923頃	木版・紙
8	金子 保	裸婦	1928	油彩・キャンバス
9	木村 莊八	ギターを弾く男(鳥海青児)	1930	油彩・キャンバス
10	中川 一政	椅子の女	1941	油彩・キャンバス
11	椿 貞雄	鶴沼風景	1921	油彩・キャンバス
12	椿 貞雄	晴子像	1943	油彩・キャンバス
13	井上 三綱	女	1922頃	油彩・キャンバス
14	井上 三綱	坂道	1922頃	油彩・キャンバス
15	井上 三綱	自画像	不詳	油彩・キャンバス
16	井上 三綱	馬の親子	1930頃	油彩・キャンバス
17	井上 三綱	髪	1948頃	油彩・墨・胡粉・キャンバス
18	井上 三綱	三人の女	1945頃	油彩・キャンバス
19	井上 三綱	武人たち	不詳	油彩・キャンバス
20	井上 三綱	馬を御す	1949	油彩・キャンバス
21	井上 三綱	水辺の馬	1956	油彩・墨・胡粉・キャンバス
22	井上 三綱	乳牛三頭	1951	油彩・墨・胡粉・キャンバス
23	井上 三綱	女達	1953頃	油彩・墨・弁柄・胡粉・ボード
24	井上 三綱	習作	1954頃	水彩・胡粉・厚紙
25	井上 三綱	仕事する女達	1957	油彩・墨・弁柄・胡粉・キャンバス
26	井上 三綱	果物	1959頃	墨・岩絵具・胡粉・紙
27	井上 三綱	たね	1975	墨・岩絵具・コラージュ・紙
28	井上 三綱	風の中の牛	1966	墨・コラージュ・紙
29	里見 勝蔵	イビサの田野	1961	油彩・キャンバス
30	中村 琢二	奥大井	1983	油彩・キャンバス
31	中村 琢二	うたい	1965	油彩・キャンバス
32	鳥海 青児	アルジェ風景	1932	油彩・キャンバス
33	鳥海 青児	アルゼリー港	1933	油彩・キャンバス
34	鳥海 青児	男像	1942	油彩・キャンバス
35	鳥海 青児	狸穴の森	1954	油彩・キャンバス

36	鳥海 青児	インカの石街	1961頃	油彩・キャンバス
37	鳥海 青児	果汁を吸うマヤ人	1964	油彩・キャンバス
38	森田 勝	北海道旅行スケッチブック(1)	1928	鉛筆・紙
39	森田 勝	北海道旅行スケッチブック(2)	1928	鉛筆・紙
40	本荘 赴	津久井湖	1980	油彩・キャンバス
41	本荘 赴	坂道	1982	油彩・キャンバス
42	本荘 赴	那須の荒山	1985	油彩・キャンバス
43	本荘 赴	蓮池早暁	1988	油彩・キャンバス
44	小関 利雄	五月の箱根	1966頃	油彩・キャンバス
45	原 精一	女の顔(陳小姐)	1942	油彩・キャンバス
46	原 精一	バレリーナF嬢	1956	油彩・キャンバス
47	原 精一	女達	1963	油彩・キャンバス
48	菅野 陽	寄らないで(a)	1954	銅版・紙
49	菅野 陽	寄らないで(b)	1955	銅版・紙
50	菅野 陽	おしくらまんじゅう(A)	1957	銅版・紙
51	菅野 陽	おしくらまんじゅう(B)	1957	銅版・紙
52	菅野 陽	トーテムa	1958	銅版・紙
53	菅野 陽	トーテムb	1958	銅版・紙
54	菅野 陽	おしゃべり	1959	銅版・紙
55	菅野 陽	おどり(四人)	1959	銅版・紙
56	菅野 陽	かたち	1964	銅版・紙
57	菅野 陽	翼ある人	1964	銅版・紙
58	菅野 陽	背景ある人	1964	銅版・紙
59	菅野 陽	古墳より	1991	銅版・紙
60	二見 利節	玄武蘇上	1972	油彩・キャンバス
61	二見 利節	裸婦のいる風景(絶筆)	1975	油彩・キャンバス
62	山下大五郎	早春	1941	油彩・キャンバス
63	三橋兄弟治	セゴビアの古寺と民家	1968	水彩・紙
64	松本 節	つた繁る頃	1933	油彩・キャンバス
65	四谷十三雄	人物	不詳	油彩・キャンバス
66	四谷十三雄	静物	不詳	油彩・キャンバス
67	四谷十三雄	静物	不詳	油彩・キャンバス
68	四谷十三雄	コンポジション	不詳	油彩・キャンバス
69	今村 紫紅	水汲む女・牛飼う男	1914	紙本着色
70	安田 靱彦	赤星母堂像 大下絵(1)	1943	紙本墨画
71	安田 靱彦	赤星母堂像 大下絵(2)	1943	紙本墨画
72	安田 靱彦	赤星母堂像 大下絵(3)	1943	紙本墨画
*73	安田 靱彦	菅公幼少図	1939頃	絹本着色
74	山本 丘人	春近し	1952	絹本着色
75	益井三重子	先生御書見	1977	紙本着色
76	工藤 甲人	樹木のうた	1956	紙本着色
77	工藤 甲人	わが壁に	1985	紙本着色

特集展示「本荘赴の素描作品」1999年5月25日(火)～6月17日(木)

No.	作家名	作品名	制作年	材質・技法
I 植物・蔬果				
1	本荘 赴	春蘭	不詳	鉛筆・紙
2	本荘 赴	春蘭	不詳	鉛筆・紙
3	本荘 赴	ひめしゃら	不詳	鉛筆・紙
4	本荘 赴	シャクヤク	不詳	鉛筆・紙
5	本荘 赴	山ゆり	不詳	コンテ・紙
6	本荘 赴	いちはつ	不詳	コンテ・紙
7	本荘 赴	花菖蒲	1970-80	コンテ・紙
8	本荘 赴	花菖蒲	1970-80	コンテ・紙
9	本荘 赴	花菖蒲	1970-80	コンテ・紙
10	本荘 赴	花菖蒲	1970-80	鉛筆・紙

11	本荘	越	花菖蒲	1970-80	鉛筆・紙
12	本荘	越	花菖蒲	1970-80	鉛筆・紙
13	本荘	越	花菖蒲	1970-80	鉛筆・紙
14	本荘	越	花菖蒲 秦翁寺にて (一)	1981	コンテ・紙
15	本荘	越	花菖蒲 秦翁寺にて (二)	1981	コンテ・紙
16	本荘	越	花菖蒲 秦翁寺にて (三)	1981	コンテ・紙
17	本荘	越	泰山木	1979	コンテ・紙
18	本荘	越	泰山木つぼみ	1979	コンテ・紙
19	本荘	越	泰山木の蕾	1979頃	コンテ・紙
20	本荘	越	泰山木の蕾	1979頃	コンテ・紙
21	本荘	越	泰山木の蕾	1979頃	鉛筆・墨・淡彩・紙
22	本荘	越	黒松の秋の枝	不詳	コンテ・紙
23	本荘	越	南瓜	1980	コンテ・紙
24	本荘	越	さつま芋	不詳	コンテ・紙
25	本荘	越	さつま芋	不詳	コンテ・紙
26	本荘	越	バナナ	1978	コンテ・紙
27	本荘	越	キャベツ	不詳	コンテ・紙
28	本荘	越	夏柑	不詳	鉛筆・紙
29	本荘	越	梨	不詳	鉛筆・紙
30	本荘	越	メロン	不詳	鉛筆・紙
31	本荘	越	柿	不詳	コンテ・紙
II 風景					
32	本荘	越	平塚 (緞帳下絵)	1984頃	コンテ・紙
33	本荘	越	平塚市高根風景	1971	コンテ・紙
34	本荘	越	秦野風景	不詳	コンテ・紙
35	本荘	越	東田原風景	不詳	コンテ・紙
36	本荘	越	東田原	不詳	コンテ・紙
37	本荘	越	山麓の街	1981	コンテ・紙
38	本荘	越	山麓の街	1978	油彩・キャンバス
39	本荘	越	国立療養所	1982	コンテ・紙
40	本荘	越	丹沢山	1982	コンテ・紙
41	本荘	越	丹沢山	不詳	コンテ・紙
42	本荘	越	丹沢山	不詳	コンテ・紙
43	本荘	越	丹沢山塊	1990	油彩・キャンバス
44	本荘	越	飛鳥風景	不詳	コンテ・紙
45	本荘	越	清川村上谷戸風景	1976	コンテ・紙
46	本荘	越	津久井湖	不詳	コンテ・紙
47	本荘	越	津久井湖	1980	油彩・キャンバス
48	本荘	越	上野原風景	不詳	コンテ・紙
49	本荘	越	上野原	1975	コンテ・紙
50	本荘	越	国府本郷	不詳	コンテ・紙
51	本荘	越	国府本郷	不詳	コンテ・紙
52	本荘	越	国府本郷	不詳	コンテ・紙
53	本荘	越	足柄町	不詳	コンテ・紙
54	本荘	越	松田山 (一)	1983	コンテ・紙
55	本荘	越	松田山 (二)	1983	コンテ・紙
56	本荘	越	松田山 (スケッチ)	不詳	コンテ・紙
57	本荘	越	箱根風景	不詳	コンテ・紙
58	本荘	越	箱根芦ノ湖	不詳	コンテ・紙
59	本荘	越	箱根芦ノ湖	不詳	コンテ・紙
60	本荘	越	早雲山の秋	不詳	コンテ・紙
61	本荘	越	五月の不二	不詳	コンテ・紙
62	本荘	越	笛吹川上流風景	不詳	コンテ・紙
63	本荘	越	雪の山中湖畔	不詳	コンテ・紙
64	本荘	越	那須の荒山	1985	コンテ・紙
65	本荘	越	木立	不詳	コンテ・紙
66	本荘	越	浅間高原	不詳	鉛筆・紙

67	本荘	越	浅間高原	不詳	コンテ・紙
68	本荘	越	八ヶ嶽スケッチ	1960	コンテ・紙
69	本荘	越	奥秩父	不詳	コンテ・紙
70	本荘	越	伊賀の山	1972	コンテ・紙
71	本荘	越	坂道 (山腹の町)	1982頃	コンテ・紙
72	本荘	越	坂道 (坂道のデッサン)	1982頃	コンテ・紙
73	本荘	越	坂道	1982	油彩・キャンバス
Ⅲ建てる					
74	本荘	越	麦秋の農夫達	1980	コンテ・紙
75	本荘	越	建てる	1982頃	コンテ・紙
76	本荘	越	建てる	1982頃	コンテ・紙
77	本荘	越	建てる	1982頃	コンテ・紙
78	本荘	越	建てる	1982頃	コンテ・紙
79	本荘	越	建てる	1982頃	コンテ・紙
80	本荘	越	建てる	1982頃	コンテ・紙
81	本荘	越	建てる	1982頃	コンテ・紙
82	本荘	越	建てる	1982	コンテ・紙
83	本荘	越	建てる (エチュード)	1982	油彩・キャンバス
Ⅳ仏像・肖像					
84	本荘	越	広目天像	不詳	コンテ・紙
85	本荘	越	広目天	不詳	木版・紙
86	本荘	越	人麻呂像 (小下絵)	1987頃	鉛筆・紙
87	本荘	越	人麻呂像 (下絵)	1987	鉛筆・墨・紙

特集展示「追悼 濱谷浩」2000年2月24日(木)～3月26日(日)

No.	作家名	作品名	制作年	撮影地
■『雪国』(毎日新聞社、1956年刊) 所載				
	濱谷 浩	地藏様年始	1939～61	新潟県 (越後)
	濱谷 浩	ホンヤラ洞にゆく子供たち	1939～61	新潟県 (越後)
	濱谷 浩	ホンヤラ洞で歌う子供たち	1939～61	新潟県 (越後)
	濱谷 浩	草鞋を売る老婆	1939～61	新潟県 (越後)
	濱谷 浩	雁木下をゆくゴゼ	1939～61	新潟県 (越後)
	濱谷 浩	村の構成 村の全景	1940～46	新潟県 (桑取谷)
	濱谷 浩	若木迎え アキの方向に向かって歩き出す	1940～46	新潟県 (桑取谷)
	濱谷 浩	若木迎え 若木迎えの山に入る	1940～46	新潟県 (桑取谷)
	濱谷 浩	若木迎え 若木に祈る	1940～46	新潟県 (桑取谷)
	濱谷 浩	若木迎え シン木を立てる	1940～46	新潟県 (桑取谷)
	濱谷 浩	若木迎え スイサンボ	1940～46	新潟県 (桑取谷)
	濱谷 浩	餅つき 餅をつく	1940～46	新潟県 (桑取谷)
	濱谷 浩	餅つき マイダマをつくる	1940～46	新潟県 (桑取谷)
	濱谷 浩	モノづくり 太刀をつくる	1940～46	新潟県 (桑取谷)
	濱谷 浩	飾りつけ 十五日夜のおまいり	1940～46	新潟県 (桑取谷)
	濱谷 浩	鳥追い 村の子供	1940～46	新潟県 (桑取谷)
	濱谷 浩	鳥追い 鳥追いにでる	1940～46	新潟県 (桑取谷)
	濱谷 浩	鳥追い 歌ってゆく鳥追い	1940～46	新潟県 (桑取谷)
	濱谷 浩	水浴び 水浴びをする河原	1940～46	新潟県 (桑取谷)
	濱谷 浩	宮参り寺参り 理趣文の点読	1940～46	新潟県 (桑取谷)
	濱谷 浩	焼草集め 太刀をもつ子	1940～46	新潟県 (桑取谷)
	濱谷 浩	焼草集め 焼草集めの子供	1940～46	新潟県 (桑取谷)
	濱谷 浩	嫁祝い婿祝い 嫁祝い	1940～46	新潟県 (桑取谷)
	濱谷 浩	嫁祝い婿祝い 賀祝い	1940～46	新潟県 (桑取谷)
	濱谷 浩	サイの神 フレゴト	1940～46	新潟県 (桑取谷)
	濱谷 浩	サイの神 火を移す	1940～46	新潟県 (桑取谷)
	濱谷 浩	サイの神 タイマツのうちあい	1940～46	新潟県 (桑取谷)
	濱谷 浩	十六日の朝 朝の祝餅	1940～46	新潟県 (桑取谷)
	濱谷 浩	十六日の朝 寺参り	1940～46	新潟県 (桑取谷)

■『裏日本』（新潮社、1957年刊）所載

濱谷 浩	津軽の男	1955	青森県（北津軽郡）
濱谷 浩	共同井戸	1955	秋田県（男鹿半島）
濱谷 浩	港のない漁村	1955	青森県（東津軽郡）
濱谷 浩	海の家族	1955	秋田県（男鹿半島）
濱谷 浩	歳の市	1955	青森県（五所川原市）
濱谷 浩	雁木	1956	新潟県（十日町市）
濱谷 浩	氷の下の地曳き網	1955	秋田県（八郎潟）
濱谷 浩	停留所	1955	石川県（阿北郡）
濱谷 浩	餅つくり	1956	新潟県（小千谷市）
濱谷 浩	田植女	1955	富山県（中新川郡）
濱谷 浩	生活	1955	富山県（新湊市）
濱谷 浩	湯滝にうたれる女たち	1957	青森県
濱谷 浩	島の墓場	1955	山口県（萩市）
濱谷 浩	農家の子	1955	青森県（青森）
濱谷 浩	稲刈り	1955	山形県（酒田市）
濱谷 浩	雲と波と雪と家	1955	新潟県（新潟市）
濱谷 浩	海の夫婦	1955	青森県（西津軽郡）
濱谷 浩	赤子を背負った子	1955	青森県（東津軽郡）
濱谷 浩	山の暮らし	1955	青森県（東津軽郡）
濱谷 浩	雪に暮れる部落	1955	青森県（東津軽郡）

■『昭和男性諸君』（朝日新聞社、1989年刊）所載

濱谷 浩	クリスマス・イブの酔客	1935	東京都（銀座）
濱谷 浩	満州開拓団の鉄道警備員の一家	1940	満州
濱谷 浩	陸軍兵器学校の教育	1941	千葉県
濱谷 浩	横須賀海兵団横隊行進	1941	神奈川県（横須賀）
濱谷 浩	戦災で渡道、開拓地に移った家族	1957	北海道
濱谷 浩	アシカ	1959	東京都
濱谷 浩	国会議事堂南通用門	1960	東京都

■『写真体験60年 濱谷浩展』（平塚市美術館、1991年刊）所載

濱谷 浩	花を売る少年	1936	東京都（銀座）
濱谷 浩	敗戦の日の太陽	1945	新潟県
濱谷 浩	迎え火	1948	新潟県
濱谷 浩	引揚者	1953	東京都
濱谷 浩	寒い日の海女	1958	福井県
濱谷 浩	産毛を剃る女	1956	中国
濱谷 浩	米倉庫	1960	タイ（バンコク）
濱谷 浩	クーデター報告集会	1976	ボリビア（ラパス）
濱谷 浩	古代豪族の墓	1979	アルジェリア（ジャネット）

■『学芸諸家』（岩波書店、1983年刊）所載

濱谷 浩	藤田嗣治	1937	東京都
濱谷 浩	上村松園	1944	京都府
濱谷 浩	河井寛次郎	1944	京都府
濱谷 浩	小林古径	1949	東京都
濱谷 浩	安井曾太郎	1949	神奈川県（湯河原）
濱谷 浩	會津八一	1950	新潟県
濱谷 浩	棟方志功	1951	新潟県（大潟）
濱谷 浩	木村莊八	1952	東京都
濱谷 浩	矢代幸雄	1952	神奈川県（大磯）
濱谷 浩	三岸節子	1952	東京都（中野）
濱谷 浩	高橋誠一郎	1952	神奈川県（大磯）
濱谷 浩	前田青邨	1953	神奈川県（鎌倉）
濱谷 浩	安田靉彦	1970	神奈川県（大磯）
濱谷 浩	開高健	1982	神奈川県（茅ヶ崎）

教育普及

テーマ「カラダを表現する」2000年2月20日～3月29日

■開催趣旨

人の「からだ」をテーマに美術表現を体験することを趣旨として、3種類のワークショップと2つのレクチャーを開催した。「体」という文字の旧字は「體」で、この俗字として「体」「軀」という文字が用いられ、新字体に採用されたと漢和辞典にある。また「からだ」に対しては「身体」「軀」という表記もある。このようにさまざまな文字が当てはまるので、それらをすべて含む意味で、今回は「からだ」をひらがな、あるいはカタカナで表記することにした。

こうした教育普及活動を通じて、参加者や来館者が美術館で美術と出会う体験がより豊かになることを目指している。

「カラダを表現する」

1. 子どものワークショップ わたしのカラダを立体コピー！

リーダー 青木由香・永井悦子・北川純・森栄二
日時 2月20日（日）と3月11日（日）の2回開催に加え、
選にもれた子どもを対象に3月29日に追加で実施
10：00～16：30（3回とも）
対象・定員 小学生／15名程度
会場 アトリエ、テーマホール休憩コーナー



自分のからだを原型にして型をとることと、からだの外側の形を直接写し取る体験をした。型どりに2種類の材料を使いわけた。「テトリッコ」とは手の立体コピーを取るのに使った型どり材の名前で、自分の手を原型に「テトリッコ」でつくった型に石膏を流し込むと、簡単に手のコピーができあがる。かまぼこの食品添加物としても使われているものなので、これを使うことにした。石膏が固まったら、型を崩して中身を取り出すので、型とはいえ基本的には1回限りの使用になる。「ベルストン」は、脚の外側だけを写し取るのに使用した材料。「ベルストン」は医療用の「ギプス」と同じもので、水で濡らし写し取りたい物の表面を覆い、それを乾かしてから剥がすと、外側だけが立体的に写し取られて張り子のようなものである。完成した手と脚の立体コピーをよく見るために「透明人間の撮影」という時間を設定した。これはワークショップのはじめに、ポーズを決めた子どもたちを撮影したので、できあがった手と脚をもとのポーズのままに設置してから、再びそれをインスタントカメラで撮影するというものである。ポーズを取っている子どもと、手と脚の一部が写っている「透明人間」の2枚の写真ができあがる。この時間に、自分のつくったもの、他の子どもたちのつくったもの、そして、置く場所によって同じものでもいろいろに見えることを体験してみようとした。館内の大きなガラスに吸盤とテグスを使って高さを調節した手や脚を設置して写真を撮影。展示してよく見る、置く場所によって見え方が違う、という体験をしたが、これは中学生や高校生、あるいはおとなだと、よりさまざまな展開があると思われる。

□内容

- 10:00 あいさつ、リーダーの紹介
ワークショップ全体の説明
スライドの上映（G.シーガル、アヴァカノヴィッチなど）
- 10:30 どのポーズで作るか考えるための写真、インスタントカメラでの撮影
- 11:00 手の立体コピー
- 12:30 お昼
- 13:15 足の形を制作
- 14:30 立体コピーを離形する
- 15:00 つくった物を美しく見えるように設置
作品をよく見えるように移動し、全体像を撮影
- 16:40 おしまいの挨拶

「カラダを表現する」

2. レクチャー「ヨーロッパと日本の絵画でたどる化粧、髪型、ファッション」

人の顔や体に施す化粧、髪型、装身具などはその人がどのような人であるかを表現するものである。「人はどんな装いをしてきたのか」という視点から絵画を読み解き、古今東西のよく知られた絵画を歴史的にたどった。2回のレクチャーのうちヨーロッパ編では、紀元前のエジプト壁画やローマ時代の絵画から、王侯貴族の肖像画を経てアールデコまでを取り上げた。また17世紀の肖像画、エリザベス女王、マリーアントワネット、ビクトリア女王、ナポレオン3世などを紹介し、髪型、装身具、ファッションについて語った。そして日本編では、奈良時代の絵画から彦根屏風、江戸・明治時代の浮世絵版画を経て近代版画や日本画までを取り上げレクチャーした。また、ポーラ文化研究所所蔵資料をレクチャーの中で公開した。

講師 津田紀代（ポーラ文化研究所学芸員）

日時 ヨーロッパ編 2月27日（日）

日本編 3月19日（日）の2回 13:30～15:30

対象・定員 一般／70名程度

会場 美術館ミュージアムホール



「カラダを表現する」

3. ワークショップ「触ることのでつくられる」

「目で見てわかる」と「触れてわかる」ことは違うということを「ひとのかたち」や「ひとがた」を制作の素材やテーマにして、手が触れる感覚を通して立体造形の制作をおこなった。

制作プロセスの中にも手が触れることで作り出される形態を取り込んだ。人の形として、キューピー人形を用いた。木工用ボンドを手で塗り、形状を変化させて（輪郭を曖昧にして）からそれをパーツに分けて豚革に写し取っていく。それから豚革を切り取り、穴を空けて革ひもで結び、人形に組立ていく。キューピー人形のボンドが乾く間、同じような考え方の作業として平面に単純な絵を描き、それをパーツに切り分け、他の人の描いたものと混ぜて、大きな全体をつくっていくという体験をした。これは、システムを意図的に替えてしまうことで、自分だけでは考えられなかったようなものをつくってみるという体験である。キューピー人形から出発した立体の作業はかなり時間がかかるので、完成する事が目標であった。最終日になんとか間に合わせた参加者たちはエントランスギャラリーにひとつの原型からできた「革製の人型」およそ20体を並べ、スポットライトを当てて鑑賞した。アトリエで見たときは気づかなかった、差異あるいは共通性がはっきりあらわれた。その後、今回の体験がどのようなであったかという質疑応答がかわされた。

講師 加藤隆明（美術家／大阪芸術大学講師）
日時 3月4日（土）5（日）18（土）の3日間 10：30～16：30
対象・定員 一般／20名程度
会場 アトリエA、エントランスギャラリー

□内容

3月4日（土）

10：30～12：00

はじめの挨拶、講師紹介、趣旨（端山）

3日間の内容について（加藤）

キューピー人形にボンドを塗る作業。

13：00～

キューピー人形を天井から吊る

13：30～15：30

システムを組み替える体験ゲーム

15：45～16：50

豚革の加工を練習する。

3月5日（日）

ボンド表皮にマーカーで線やつなぎ止める穴のための点を入れる。

切り取る、線付け、貼り付け

革をつないで立体的につなぎ止めていく、この日中に頭部を作り上げることを目標にする。

次回までの2週間の間に最低胴体、できれば手までを宿題とする。

3月18日（土）

革をつないで立体的につなぎ止めていく作業。

15：30～

エントランスギャラリーで展示して眺めてみる

16：20～16：50

まとめの話



「カラダを表現する」

4. ワークショップ「FIVE SENSE（ファイブセンス）」

最初に講師のスライドレクチャーにより、制作について、作品の紹介、現在関心をもっていることなどについて話を聞いた。これは長い自己紹介のようなものであった。

それから、聞くこと、触れること、味わうこと、匂いを嗅ぐことなど、身体感覚（五感）を使って体験したことを絵や文字で表現してみた。制限された五感の中でそれぞれの人が異なる事を感じるという差異に注目したが、逆にそれほど大きな振幅がなかったので、考えていたより差異が少なかったともいえる。

次に講師の制作した「体験装置」の中に入ってみた。これは美術館企画展示室の一角に設置され、自分自身と外界との境界を感じるための「装置」である。

それから、多様な布やファイバー（天然繊維や合成繊維）を用いて「自分と他との境界」「身体の際（キワ）」をテーマに作品をつくった。最終日には制作した作品の発表会があった。

この「体験装置」は3月12日～26日まで設置され、一般来館者の方にも公開した。

講師	眞田岳彦（造形家）
日時	3月19日（日）25日（土）26日（日）の3日間 10：30～16：30
対象・定員	一般／20名程度
会場	アトリエB、企画展示室

□内容

3月19日（日）

午前 スライドレクチャー

午後 五感を表現する

3月25日（土）

午前 「体験装置」を体験する

午後 制作 テーブルサイズ

3月26日（日）

午前 制作 テーブルサイズ

午後 発表



5. ワークショップクラブ「参加する美術館『幻想植物園』展のバックステージ」

リーダー	当館学芸員
活動期間	1999年4月～2000年3月まで
対象／人数	一般／52名
活動場所	アトリエA・B

展覧会「幻想植物園」展の準備から開催、終了まで体験する2年以上にわたる長期プログラムの最終年でおこなった活動は以下のとおりである。

1999年4月	茜の染色をおこなう
4月13日	国立科学博物館の見学会 「透かし葉にメッキの体験」「教育ボランティアによる展示解説に参加」 「教育ボランティアとの交流会」
4月25日	平塚市美術館 レクチャー「博物館・美術館の歴史：社会・文化との関わりの中で」 久保内加菜（東京工芸大学非常勤講師）
5月12日	レポートの執筆はじまる（およそ1年続く）
5月23日	第16回全体ミーティング
5月29日	山城中学校A組への透かし葉ワークショップ
6月19日	「劉生派生け花」の研修会として透かし葉ワークショップ
6月26日	第17回全体ミーティング
7月上旬	透かし葉サンプルの制作始まる（12月までに10部制作）
7月13日	ニューズレター最終号が完成
7月24日	第18回全体ミーティング
9月26日	第19回全体ミーティング
10月31日	第20回全体ミーティング
11月	「幻想植物園展」ワークショップクラブ活動ドキュメントの発行、発送作業
12月4日	WSC「幻想植物園展」のバックステージ解散会
2000年3月	レクチャー「茜の色について」 下山進・裕子（デン・マテリアル(株)色材科学研究所）

ワークショップオリジナルブックの制作

教育普及活動の記録として、あるいはワークショップ参加者のテキストとして制作したものをひとつのテーマでまとめ、新たな解説を加えて発行したシリーズものの小冊子。これらは館内ミュージアムショップで1冊500円で販売している。

読むこどものワークショップ⑪

「わたしのカラダを立体コピー」

B 6 変形版／20頁

編集・解説 端山聡子

イラスト 青木由香



読むワークショップ⑫

「カラダを表現する」

B 6 変形版／28頁

編集・解説 端山聡子

イラスト 原田紀子



オリジナルビデオの制作「常設展ガイド 洋画編・日本画編」

企画 画：平塚市美術館

制作：アズコミュニケーション

作品分数：22分

これまで市の広報ビデオとして「くすのきタイム」のために撮影された映像を素材に編集し、常設展をテーマに洋画編・日本画編の2本の番組を制作した。このビデオは館内情報コーナーで来館者に公開される。

陶 芸

1. 初心者陶芸教室

土練りからはじめて、手捻りにより作品を作り、釉薬をかけ、窯詰め、窯出しまでを5日間で体験する講座とした。焼き物を作るためには、いろいろな行程があり、そのどれもが欠くことの出来ない作業である。この講座では、素材である粘土に焦点をあて、その特長を理解するために、土練り、成形に時間をかけた。

対 象	高校生以上
定 員	18名（参加16名）
開催日	5月9日、5月16日、5月23日、6月6日、6月13日
時 間	13:00～16:30
場 所	美術館アトリエB



2. 夏休み子供陶芸教室

小学校の低学年を対象に2講座、高学年を対象に2講座開催した。1年から3年生の低学年は、テラコッタ粘土を使い、粘土遊びの延長の中から、その特長をつかむことを目的とした。4年から6年生の高学年は、「うつわ」という機能を条件として作品を作った。特に高学年の講座は、粘土という素材になれている子供たちが、焼き物としての粘土の特長、成形の違いを学ぶことを目的に手捻りとタタラ作りを取り入れた。

対 象	小学生
開催日	Aコース 7月27日 Bコース 7月29日 Cコース 8月3日 Dコース 8月5日
定 員	各コース 18名（参加74名）
時 間	13:00～16:00
場 所	美術館アトリエB



3. 初心者陶芸教室

初回は、制作のイメージをつかめるよう土練りを主に土に触れることに十分な時間をとった。2日目から手捻りで作品を作り、削り作業、施釉作業、窯詰め、窯出しまで5日間で体験する講座とした。また、電動轆轤を使い、水引き作業を体験しその成形の特長を学ぶようにした。

対 象	高校生以上
定 員	各コース18名（参加37名）
開催日	Aコース 2月5日、2月12日、2月19日、3月4日、3月11日 Bコース 2月6日、2月13日、2月20日、3月5日、3月12日
時 間	13:00～16:30
場 所	美術館アトリエB



保存・修復

平成11年度 保存・修復作品

No.	作者名	作品名	技法・材料	サイズ (cm)
絵画 (修復)				
1	二見 利節	女	オイルパステル・水彩・紙	181.9×88.8
2	二見 利節	Composition	オイルパステル・水彩・紙	182.0×97.0
3	二見 利節	牛	オイルパステル・蠟彩・紙	182.2×97.0
4	松本 節	瑞泉寺	油彩・キャンバス	72.5×90.9
5	松本 節	ひまわりと雪	油彩・キャンバス	65.3×91.2
6	井上 三綱	麦畑	ペン画 (表) パステル画 (裏)	31.7×47.4
7	井上 三綱	麦畑のある風景	黒インク・紙	24.7×57.7
8	高島達四郎	樹木・箱根連山	油彩・キャンバス	21.5×27.5
彫刻・立体 (保存・メンテナンス)				
1	保田 春彦	赤錆の幕舎	COR-TEN鋼	257.0×296.0×209.0
2	佐藤 忠良	緑	ブロンズ	190.0×80.0×70.0
3	舟越 保武	海の顕彰碑 渚	ブロンズ	194.0×60.0×50.0
4	柳原 義達	座る女	ブロンズ	71.0×100.0×45.0
5	淀井 敏夫	海	ブロンズ	340.0×230.0×90.0
6	ホセ・デ・リヴェラ	コンストラクション#115	ステンレススティール	612.0×852.0×912.0

収蔵庫虫害調査 (虫害モニタリング)

定期的に収蔵作品の保存環境を見直し、日常的に空調運転の厳密なデータ採取をおこない、作品にとって安全で良好な空気環境を維持し続けることが、虫害を発生させない基本的な仕事としてまず挙げられる。黴の発生は温度20℃湿度70%以上の状態から顕著になる。この黴を餌に害虫が発生し増殖し、収蔵作品に食害を与える。気がついたら大量の害虫の発生をみて、作品に多大な被害をこうむるという事例は、よくみられる。この原因は、きめ細かい日常的な害虫に対する関心の欠如からくる。虫害モニタリングは文化財を守る施設の第一義的に求められる義務として位置づけられる仕事である。最近、燻蒸ガスによる害虫駆除に使われてきたメチルブロマイドが地球環境を破壊するフロンガスと同様に、オゾンホール発生の原因と指摘され、国際的に製造、使用の禁止となり、2005年までに全廃される。そのために、代替薬品の開発が急務となっている。文化財が虫害から守られるための極めて有効であった燻蒸ガスが使用できなくなってきた状況は、文化財にとって極めて危険な状況にあるといわなくてはならない。可能な限り危険な有毒ガスの使用を避け、害虫の発生をさせない努力については、国際的にIPM (総合防除管理) という概念が注目されてきている。虫害に対する組織的監視体制の重要性が指摘され関係者には充分認識されることが望まれる。

以上のような背景をもつ美術館の収蔵作品に対する虫害モニタリングは、平成6年度から毎年、財団法人文化財虫害研究所に委託し、今年も収蔵庫、展示室を昨年同様おこなった。新規に収集した寄贈、寄託作品について、個別に減圧燻蒸装置によって燻蒸処理をおこない、装置に入らない大型作品については、特別収蔵庫における収蔵庫燻蒸をおこなった。当館では、燻蒸ガス (メチルブロマイド) の代替品の導入研究をすすめることが急務となってきている。

収蔵庫・展示室空気環境調査

昨年度行った環境試験紙による空気環境調査では、収蔵庫はやや酸性、展示室はややアルカリ性との結果が出、これを改善するために収蔵庫空調系統に酸性ガス除去フィルタ、展示室空調系統にアルカリガス除去フィルタを設定した。

今年度は設置したフィルタの効果を確認するとともに、環境試験紙の結果では把握することのできない個別のガス濃度について評価するため、化学分析器を用いたより詳細な調査もあわせて行った。

調査は企画展示室の展示替え期間を利用し、空調を通常の運転状態に保ち行った。調査項目と方法、結果は下表のとおりである。各有害ガスのうち、東京国立文化財研究所が示している清浄度の指標を超えたのは、収蔵庫1のHCHO（ホルムアルデヒド）であった。この原因は一部の額装作品に使用される合板接着剤と考えられ、収蔵庫内にこれを除去する酸性ガス除去フィルタを設置することとした。新たな収蔵作品についてはその付属物や額についても有害ガスの発生をできる限り排除する配慮が必要であり、また同時に既収蔵作品から発生するガスを確実に除去してゆく処置も不可欠であると思われる。

その他の調査場所については、各種ガスも粉塵濃度も良好な状態まで抑えられていた。結果の詳細については「平塚市美術館 展示室内及び収蔵庫内環境調査報告書」（日本エアー・フィルター株式会社、当館保管）を参照。

実施期間 平成12年2月8日(火)～15日(火)
調査報告 平成12年3月7日(火)
調査機関 進和テクノエア株式会社、日本エアー・フィルター株式会社

調 査 項 目	方 法	単位	収蔵庫1	特 別 収蔵庫	常設展示室		企画展示室		屋 外
					ケース外	ケース内	ケース外	ケース内	
NO2（二酸化窒素）	フィルターバッジ法	ppb	0.8	1.1	1.9	2.1	1.9	1.3	29
HCHO （ホルムアルデヒド） ⁽¹⁾	DNPH	ppb	93	58	56	—	41	—	—
	バッシブ法	ppb	73	49	50	49	41	39	50
NH3 （アンモニア） ⁽²⁾	インピンジャー	ppb	5.5	6.7	9.0	—	11.2	—	—
	バッシブ法	ppb	8.1	8.2	13	26	8.3	16	9.9
O3（オゾン）	バッシブ法	ppb	—	—	< 1	—	< 1	—	18
TVOC（有機物）	GC-MS法（活性炭吸着）	ug/m ³	43	21	24	—	37	—	—
CH3COOH（酢酸） ⁽³⁾	TENAX	ppb	< 0.6	< 0.6	0.6	—	0.6	—	—
浮遊粒子（0.4um以上）	パーティクルカウンタ	個	420	974	5348	—	4208	—	39551
pH	環境試験紙 ⁽⁴⁾	段階	1～2	1～2	4	5	1～2	4	1

(1)東京国立文化財研究所が提示する清浄度指標（『空気清浄』第38巻所収）は80ppb（23℃）以下。

(2)東京国立文化財研究所が提示する清浄度指標（『空気清浄』第38巻所収）は30ppb（22℃）以下。

(3)東京国立文化財研究所が提示する清浄度指標（『空気清浄』第38巻所収）は0.43ppb以下（75%RH以下）。

(4)黄色から青色への変色度を8段階に分けて空気環境が酸性あるいはアルカリ性に偏っていないかを判定するもの。1～3が酸性、4が中性、5～8がアルカリ性。

収蔵作品

平成11年度 収蔵作品

■寄贈作品

作者名	作品名	制作年	技法	寸法	寄贈者
鳥海 青児	裸婦（横たわる）	1926-30	油彩・キャンバス	38.0×48.5	横堀 辰義
鳥海 青児	裸婦	1926-30	油彩・キャンバス	42.5×34.5	横堀 辰義
鳥海 青児	裸婦	1926-30	鉛筆・紙	24.0×32.5	横堀 辰義
鳥海 青児	室内	1926-30	鉛筆・紙	22.0×28.0	横堀 辰義
島田 章三	室内景	1998	油彩、コラージュ・合板	145.5×112.1	島田 章三
伊藤 彬	月のうてな	1986	紙本着彩	176.0×264.0	伊藤 彬
伊藤 彬	夢のいりぐち	1987	紙本着彩	180.0×240.0	伊藤 彬
伊藤 彬	帰山	1988	墨、木炭・麻紙	264.0×176.0	伊藤 彬
伊藤 彬	帰林帰水	1994	墨、木炭・麻紙	180.0×240.0	伊藤 彬
井上 三綱	自刻像	不詳	石膏着彩	H32.0×W20.0×D20.0	門倉 芳枝
保田 春彦	幕舎試作・鉄	1991	鉄	H128.5×W90.0×D50.0	保田 春彦
保田 春彦	石を囲う幕舎	1992	ステンレス・スチール、石、鉄塗装	H127.0×W52.5×D52.5	保田 春彦
保田 春彦	石を包む幕舎	1993	ステンレス・スチール、黒花崗岩、鉄塗装	H94.0×W54.2×D54.2	保田 春彦
保田 春彦	版-1（3点組）	1973	シルクスクリーン、エンボッシング	（各）12.0×12.0	保田 春彦
保田 春彦	版-2（2点組）	1975	シルクスクリーン、エンボッシング	（各）13.1×13.1	保田 春彦
保田 春彦	版-3（3点組）	1984,85,80	木版	（各）15.0×10.0	保田 春彦
保田 春彦	D-1	1950年代	コンテ・紙	35.0×24.3	保田 春彦
保田 春彦	D-2	1950年代	コンテ・紙	35.5×24.8	保田 春彦
保田 春彦	D-3	1970年代	インク、鉛筆・紙 コラージュ	26.7×35.5	保田 春彦
保田 春彦	D-4	1980年代	インク、鉛筆・紙 コラージュ	40.2×24.5	保田 春彦
保田 春彦	D-5	1996	インク、鉛筆・紙	35.4×26.7	保田 春彦
保田 春彦	D-6	1998	インク、鉛筆・紙 コラージュ	35.6×26.7	保田 春彦
保田 春彦	D-7（2点組）	1990年代	インク、鉛筆・紙	（各）26.2×18.4	保田 春彦



鳥海青児 裸婦



鳥海青児 室内景



伊藤彬 月のうてな



伊藤彬 帰山



保田春彦
幕舎試作・鉄



保田春彦
石を囲う幕舎



保田春彦
石を包む幕舎



保田春彦 D-1



保田春彦 D-4

統計

平成11年度 観覧者数

月	企画展	常設展	観覧者数計
4	1,693	1,416	3,109
5	2,762	2,376	5,138
6	0	1,258	1,258
7	0	1,216	1,216
8	1,723	2,056	3,779
9	5,666	2,508	8,174
10	2,724	1,682	4,406
11	1,891	1,434	3,325
12	866	742	1,608
1	7,682	5,111	12,793
2	3,204	2,690	5,894
3	0	1,253	1,253
合計	28,211	23,742	51,953
前年度末	477,093	417,538	894,631
開館以来	505,304	441,280	946,584

平成11年度 施設利用状況

月	展覧会 開催日 催数	視察・施設見学						会議等 件数
		市 内		市 外		計		
		件 数	人 数	件 数	人 数	件 数	人 数	
4	26	3	86	2	38	5	124	5
5	27	1	30	1	10	2	40	10
6	24	0	0	0	0	0	0	9
7	27	2	52	1	12	3	64	12
8	26	1	7	0	0	1	7	3
9	26	5	116	0	0	5	116	6
10	27	5	177	3	60	8	237	13
11	25	3	120	2	68	5	188	8
12	23	1	50	0	0	1	50	10
1	23	0	0	0	0	0	0	3
2	24	2	60	3	53	5	113	15
3	26	0	9	2	31	2	40	12
合計	304	23	707	14	272	37	979	106

平成11年度 学校団体観覧利用者数

		常 設 展			企 画 展		
		学校数	生徒数	教員数	学校数	生徒数	教員数
小 学 校	市 内	12	639	40	5	268	12
	市 外	0	0	0	0	0	0
中 学 校	市 内	18	710	39	10	231	13
	市 外	1	7	0	0	0	0
高 等 学 校		1	10	1	1	10	1
合 計		32	1366	80	16	509	26

平成11年度 市民アートギャラリー利用状況

月	展 覧 会 開催日数	利 用 団体数	入場者数 (人)	展 覧 会 名
4	26	8	5,439	湘南芸術協会展、創作和紙人形華の会展、陶芸サロン遊熙会 藤井芳子油彩画個展、写真展「富士の四季」 湘南市民美術展、湘美会、鎌田志保／伊藤尚美展
5	25	5	3,598	ねんどの花・ルレーブ・フルール展、柳彩会 照心書道会創立50周年展、湘南書道同好会展 寂静会「想展」、平塚市教員美術展
6	19	4	5,356	平塚書道協会展、平塚写真家協会展 パッチワークキルト展、第22回平塚市展
7	25	3	2,339	第4回F6号アマチュア絵画作品展 第11年圓心流画道発表展 神奈川県筆友書道連盟公募展
8	24	5	3,848	'99水美日彩会展、すさ美会展 '99平塚写真連盟写真展、書・陶 入木会 神奈川現展
9	22	6	7,054	大門書悠会展、岳澄会押し花展、楓窯陶芸教室生徒展 第50回記念平塚美術家協会展、'99全神奈川写真サロン ししゅう展それぞれの詩（うた）II
10	27	5	5,058	川島安雄作品展、夢キルト展（キルトとおはなのジョイント展） 神奈川県民書連役員選抜展、第35回JRP湘南支部写真展 第47回平塚市文化祭
11	21	5	8,688	第47回平塚市文化祭、中地区中学校絵画展 第9回湘南窯陶芸展、幼少図工作品展 オリンパスカメラクラブ湘南支部写真展
12	21	6	3,227	旭彩会水彩展、書（なつかしいうた）、楽しい水彩画展 波の子造形教室作品展、第11回日本画なでしこ会 第1回“Ai（アイ）” トールペインティング作品展
1	25	5	6,065	第8回ぐう・ちょき・ばあ展、銀杏カルチャー教室発表展 第23回親と子による写生会作品展、平塚市保育園作品展 画材&ギャラリーOCTアトリエ展
2	20	5	3,385	第9回心創展、ひまわりの会、アート21油絵展 その絵の会作品発表会、なかよし作品展
3	22	6	3,430	G展、陶悠会作品展、樟の会絵画展 磯部朔風しよ展—自然と私と書II—その今 金子美江個展（はじめの一步）、第6回湘南芸術家協会展
計	277	63	57,487	

平成11年度までの 市民アートギャラリー入場者の推移

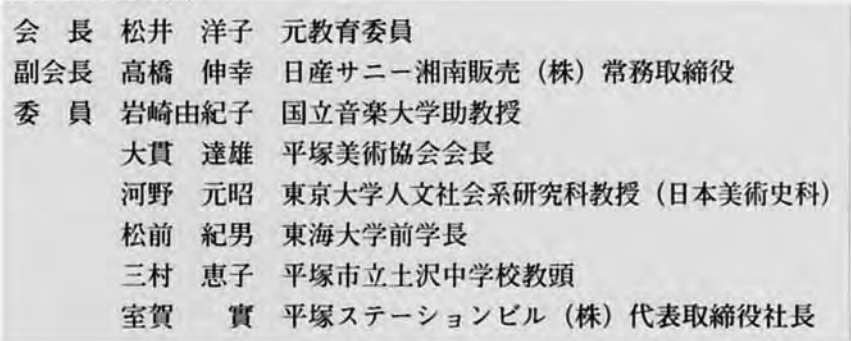
平成2年度	(1) 件	3,265人	(市民美術展H. 3. 3.27)
平成3年度	41件	61,152人	
平成4年度	50件	71,107人	
平成5年度	52件	60,426人	
平成6年度	56件	61,948人	
平成7年度	61件	62,632人	
平成8年度	62件	61,412人	
平成9年度	58件	61,301人	
平成10年度	59件	57,369人	
平成11年度	63件	57,487人	
総 計	502件	558,099人	



沿革

1984年(S59) 5月	美術館建設研究委員会(庁内)
1985年(S60) 7月	平塚市美術館基本構想策定委員会設置(1986年まで8回開催)
1986年(S61) 3月	「平塚市美術館基本構想策定」答申
1986年(S61) 4月	美術館建設基本計画策定連絡協議会設置(庁内)
1986年(S61) 9月 1987年(S62) 4月 1988年(S63) 4月	「平塚市美術館建設基本計画」策定 石川京一市長は美術館建設を公約とする。 美術館建設準備室設置
1989年(S64) 6月	美術館建設起工
1990年(H2) 10月	美術館本体工事竣工
1990年(H2) 12月	平塚市美術館条例公布
1991年(H3) 3月	平塚市美術館開館
1996年(H8) 10月	平塚市美術館開館5周年記念展 「ミレーとバルビゾン派の画家たち」

組織・運営



協議会の開催

平成11年8月25日（水）（美術館応接室）

1. 役員選出について
2. 美術館事業について

平成12年3月17日（金）（美術館研修室）

1. 美術館事業について
2. 美術館友の会・協力会について

平成11年度

平塚市美術館年報

発行 平塚市美術館

〒254-0073 平塚市西八幡1-3-3

Tel.0463 (35) 2111

印刷 コミヤ印刷(株)

Tel.0463-55-1496

平塚市東豊田480-55

平成12年4月1日発行